

虹



IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会

鶴川サナトリウム病院

IMSグループ広報誌プラザイムス

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族の皆さまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。



鶴川サナトリウム病院
【季刊 広報誌】

Vol.41

2022/新年号

新年のご挨拶

ご自由にお持ちください

- ・ 病院機能評価の認定について
- ・ つるびと「言語聴覚士」
- ・ よろず医療相談室
- ・ MCIトレーニングスタジオ「ASMO」
- ・ 認知症のリハビリテーション
- ・ きせつの料理 ほか

新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。

SDGs、カーボンニュートラルなど、次世代の地球環境への対応が急務とされる中での新型コロナパンデミックも三年に渡り、収束への道筋も未だはっきり見通せない状況の年明けとなりました。ウイルスの潮流が消長を繰り返す中でも、ワクチン及び治療薬の展望により、僅かな光明も見えて参りました。当院におきましても、昨年のコロナ感染に関し、皆様にご迷惑をおかけしたとともに、賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。

高度経済成長期と並行して平均寿命が伸び、経済的にも恵まれた時代を私たちは過ごしてきました。しかし、現状では2025年問題や社会保障の変化など、限られた経済的・人的資源をもとに、工夫をしていかなければ、必要な医療・介護の提供が厳しい状況に置かれています。急性期医療、介護、福祉機関、そして地域との連携をさらに強いものとし、誰もが住み慣れた地域において、安心して過ごせるよう、お互いの多様性を認め、協力、協調していくことが必要だと感じています。

コロナ禍により、当院の認知症疾患医療センターとしての対外活動が大幅に制限を受けました。各種啓蒙活動や講演会、認知症初期集中チームなどのアウトリーチ活動において十分な機能が果たされず、大変もどかしい思いをいたしました。今後は適時再開していく予定です。

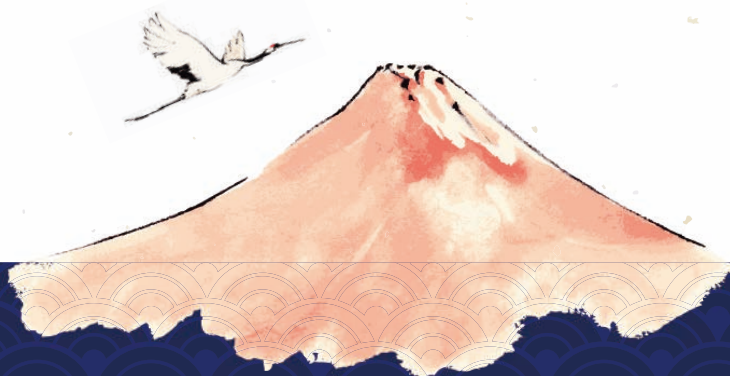
昨年は公益財団法人 日本医療機能評価機構の「病院機能評価」より認定病院としての指定を受け、より一層社会的責任を感じるとともに、当院が高齢化医療を行なう上で重点を置いている栄養管理を促進し、治す医療から維持し支える医療への変革を進めながら、当地域の慢性期医療の充実を図っていく所存です。

本年が皆様にとって良い年になりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願いいたします。

鶴川サナトリウム病院 院長

小田 功 統 二



病院機能評価の認定を受けました

当院は、2021年9月に公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、定められた認定基準に達していることが認定され、2021年12月3日付けで、「精神科病院機能」と「慢性期病院機能」の認定証の交付を受けました。



主として、精神科医療を担う病院の

リハビリテーションの項目で「S評価」を獲得

「患者さまの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」や「実際に医療を提供するプロセス」、「病院全体の管理・運営体制」など約90項目を専門調査者が審査し、評価項目をS,A,B,Cの4段階で評価しています。評価S(秀でている)は、評価項目の達成度が優れていて、かつ、その評価項目に関連して病院独自の優れた取り組みがある場合の評価です。当院は「3.1.5 リハビリテーション機能を適切に発揮している」の項目で、院内での充実したリハビリテーションの提供だけでなく、地域へのニーズに応じた通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションなどの活動提供が高く評価され、「S評価」をいただくことができました。



精神科病院機能



慢性期病院機能

当院の審査結果の詳細については、日本医療機能評価機構のホームページから閲覧できます



{ 病院機能評価とは }

「病院機能評価」は日本医療機能評価機構による評価です

患者さまの命と向き合う病院には、その医療の質を担保するために備えているべき機能があります。国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする公益財団法人として1995年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care



より高い医療を目指して

今回の結果は一部門だけの努力で得られたものではなく、全職種がそれぞれの強みを活かし、当院の理念である「安心と信頼の医療サービスの提供」を目指してきた結果です。地域のみならずから選ばれる病院であるために、これに満足せず、より一層質の高い医療・看護の提供に尽力してまいります。

鶴川サナトリウム病院
病院機能評価受審PT(プロジェクトチーム) | 内科医師 | 角家 明文



話す
聞く
食べるの
専門家



言語 聴覚士

Speech
Language
Hearing Therapist
略称: ST



「話す」「聞く」「食べる」

という行為は誰にとっても大切な能力です。しかし、生まれつき、あるいは病気や怪我、加齢によって失われてしまったそれらの能力を、医師の指示に基づき、機能回復のための支援、リハビリを行なっていくのが言語聴覚士です。高齢化が進む中、活動の場が広がりつつある言語聴覚士について、ご紹介いたします。

私たちが
支援をするのは？

構音障害

失語症・高次脳機能障害

聴覚障害

音声障害

摂食・嚥下障害



「嚥下造影検査」

食道をX線で透視することにより、食事を飲み込んでいる様子を見えます



「失語症のリハビリ」

言語障害がある方にタブレットや絵カードを使用した訓練を行ないます



「あきらめないリハビリ」

患者さま一人ひとりの可能性をあきらめず、専門性を生かしながら積極的に患者さまを支援しています

「食べる楽しみを支える」

当院は高齢の患者さまが多いため、ご病気による障害や、認知症によって食事が困難な方が多くいらっしゃいます。その中で私たちは嚥下機能(食べ物や飲み物、唾液を飲み込む力)を評価し、「食べる」についていくための方法を見定めています。食は栄養を摂るだけでなく、生活における楽しみのひとつです。患者さまそれぞれで目標は異なりますが、誤嚥性肺炎の発症リスクを抑えることばかりではなく、患者さまの「食べたい」気持ちにどうやったら応えられるか、院内のさまざまな専門職と連携を取りながら、リハビリを行なっています。

「一人ひとりに想像力を働かせる」

言語聴覚士の支援の対象となる方たちの中には、意思の疎通や食事が上手できないことに対して、大きな精神的負担を感じている方もいます。患者さまが自分らしい生活を取り戻すために、リハビリによって何ができるようにするか、ご本人や、そのご家族の間でコミュニケーションを取ることも言語聴覚士の役割です。患者さまが「どのような事を考え」「どのような気持ちだろう」など、一人ひとりの思いに想像力を働かせ、受け止める共感力を持って患者さまに向かっています。

「思いを言葉にできる日まで」

脳梗塞による後遺症などで、話そうとする言葉がうまく口から出なかったり、相手の話す内容が正しく理解できないといった症状が出る場合があります。中にはほとんどコミュニケーションが取れない方もいらっしゃいますが、そのような症状の患者さまが、仮に以前のような会話はできなくなっていたとしても、リハビリを続ける中で、手を握ったり、微笑んでくれたりと、その方なりのコミュニケーションで応えてくださることがあります。長く関わられる慢性期病院だからこそ、思いを言葉にできる日まで、患者さまが「伝える」喜びを取り戻してもらえよう支援してきたいと思っています。

よろず医療相談室

もしかして
「認知症かな？」と思ったら

町田市 認知症電話相談

専門の相談員がお受けいたします。
ご家族だけでなく、ご友人や近隣
の方など、気になることがあれば
お気軽にご相談ください。

家族のものの忘れが
気になる

治療や診断のことを
聞きたい

お問い合わせ

0120
115-513

平日 9:00-17:00 土曜 9:00-12:00

「ご家族がご本人を気遣われる気持ちは良く分かります。認知症という病気の告知については、本人にとっても家族にとっても非常に難しい問題ですね。
告知することでの良い点は、ご本人自身で今後の生活や生き方を選択することができることです。また、支えるご家族にとっても、ご本人の自己決定を尊重できることはとても大切なことだと思います。認知機能が比較的保たれている初期の段階でこうした対応が行えることが望ましいので、診断が早期であればあるほど、告知のメリットは大きいと考ええます。
検査や受診に関しては、まず、ご本人が信頼している方や、かかりつけ



精神保健福祉士
村山 秀人

の先生と事前に相談して、受診を促す提案をしていただくことでご本人も納得して受診ができる場合があります。
かかりつけの先生であれば、これまでの経過や病状などをよく把握されていらっしゃると思います。紹介状を用意してもらえれば、ご本人の状態の説明に不安があっても、安心して受診できるでしょう。
他にも、認知症検査をお願いできる病院で、健康診断を受ける流れで検査につながる方法も有効です。

70代女性より

最近、家族が友人の集まりに遅れたり、約束を忘れてしまうことが増えてきました。本人もどこか遠慮して、距離をとっているようにも感じます。一度専門医療機関への受診を勧めたいのですが、認知症の診断を受けた場合の本人のショックを考えると躊躇してしまいます。



明日が広がる

MCI軽度認知障害 トレーニングスタジオ

早期に軽度認知障害(MCI)に気づき、対策を行うことで
症状の進行を予防することはとても大切です



ごあいさつ

認知症の「未来」は次のステージへ

鶴川サナトリウム病院
認知症疾患医療センター長 精神科部長 小松 弘幸

軽度認知障害(MCI)は認知症の手前のことを表し、この段階で適切な対策をとれば、MCIを改善したり、認知症に移行するリスクを減らすことができます。しかし、それぞれの状態に応じた「適切な対策」を提供できる場はまだ少ないのが現状です。デイサービスや通所リハビリテーションといった介護保険サービスは、介護度の高い認知症の人や後期高齢者向けのものが多く、MCIの方にに向けたサービスとはなりにくく考えます。社会の中では少しずつですが、認知症の早期診断・治療、多職種連携による共生の土台が形作られてきました。これからは、本格的に認知症の予防に取り組むステージです。問題が生じてからでなく、生じる前での積極的な早期発見と、当スタジオでの治療開始で、明日とその先の未来の可能性を広げる「備え」を当院の専門職と実践し、効果を検証しながら一緒に取り組んで行きましょう。



鶴川サナトリウム病院では
2022年3月に軽度認知障害の方を対象にした
トレーニングスタジオをオープンします

将来かかりうる可能性のある

「認知症への備え」を
ご自身と家族と+医療と地域と共に
はじめてみませんか?

サービスについて

- 【適用保険】 医療保険
- 【対象】 MCIと診断を受けた方
※詳しくはお問合わせください
- 【目的】 心身機能の維持・改善
認知症への進行予防

ご利用のながれ

- ▼ 「ASMO」にお問合せ
- ▼ 見学・面談
- ▼ 当院の精神科に受診・検査

ご登録

11月~1月

イベントアルバム

院内でのイベントや行事は感染対策をした上で行なわれています。

11月

「秋のお茶会」開催

認知症身体合併症治療病棟



美味しいものを食べて「心の栄養」をチャージしよう
と、認知症身体合併症治療病棟で、季節のケーキバイキングを楽しむイベントが行われました。

11月

アクティブ福祉三町田



市内の医療・介護・福祉に関わる専門職種により、日頃の実践の成果や取り組みを共有するアクティブ福祉三町田がオンラインで開催。
当院理学療法士の鈴木 詠美子が「足部変形と筋力低下と転倒の相関」で審査員賞を受賞しました。

12月

認知症市民講座開催



当院の精神科医師岸敏郎が認知症の今をわかりやすく解説した講座「認知症の今日的理解」を鶴川市民ホールにて開催し、50名の方にご参加いただきました。他にも、専門職による相談会を行いました。

12月

全国×まちだ Dサミット2021



全国各地の認知症当事者が参加する「まちだDサミット」が開催。当院では、啓蒙活動の一環として、認知症のシンボルカラーであるオレンジのマスクを全職種が身に付け、「オレンジマスクアクション」を行いました。

認知症のリハビリにセロトニン



セロトニンは、精神の安定に深く関わっている神経伝達物質です。認知症の周辺症状に対するアプローチに非薬物療法が多く取り入れられる中、認知症の方にも無理なく続けられ、周辺症状の抑制にも期待できることから、当院のリハビリにおいても積極的に取り入れられています。

セロトニンとは？

「ノルアドレナリン」「ドーパミン」と並び、人間の精神や感情、睡眠に大きな影響を与える三大神経伝達物質のひとつです。

セロトニンの役割

- ① 朝の目覚めを良くする
- ② 平常心を保つ・不安の軽減
- ③ 自律神経を整える
- ④ 痛みの緩和
- ⑤ 顔つきや姿勢をシャキッとさせる

セロトニンが不足すると？

慢性的な疲労を感じるようになったり、イライラしたり、不眠症になったり、うつ病を発症する場合もあります。

果ごもり生活の影響は？

運動不足、日を浴びない生活、他者との会話が暮らしては、セロトニンを減らす要因になっています。セロトニン不足にならないよう、意識的に生活することが大切です。

認知症のリハビリテーション 第4回



セロトニン 活性

当院のリハビリテーション科では理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が患者さまの心身の状態の評価に応じた適切なリハビリテーションを、個別・集団で提供しています。その中でも認知症の方に対して行なっているリハビリテーションの一部をご紹介します。

セロトニンを増やす方法3つ

1 日光浴

晴れた日に、5分以上太陽光を浴びる(屋内でも可)理想は20分〜30分程度
※太陽光が網膜から吸収されることが重要なため、サングラスはしない方が良い(医師の指示がある場合は除く)

2 リズム運動

集中して5分以上 短時間でも毎日行なうながら運動ではなく意識的に理想は20分〜30分程度
例・腹式呼吸、咀嚼、ウォーキング

3 グルーミング

心地よいタッチ
世間話や飲み会などを気を遣わない相手と行なう
例・手をつなぐ・マッサージ

セロトニンは「幸せホルモン」とも言われるとおり、心の疲れを癒す作用があります。セロトニン活性で、さまざまなストレスを受け流しながら、ご自身のケアに意識的に取り入れてみてはいかがでしょうか。



セロトニンDojo公認
セロトニントレーナー
作業療法士 平野

鶴川サナトリウム病院では、公開講座を定期的の実施しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を見合わせております。今後の開催予定につきましてはホームページ等でご確認ください。ご不明な点は広報企画室（042-737-1257）まで

認知症看護認定看護師が増えました

病棟や外来、認知症初期集中支援チームで認知症の患者さまやご家族と関わりながら、その方に合ったケアを提供できるよう日々取り組む「認知症看護認定看護師」が、新たに1名加わりました。

new

認知症看護認定看護師

内田 愛美



院内にとどまらず、地域に貢献できる認定看護師として、認知症の方の柔らかな笑顔と幸せのために頑張ります！

家族介護者向け
認知症
カフェ

介護の合間にほっと一息

やわらかカフェ

参加無料
申込み制

1月14日(金)開催予定

専門職も
集まります！



時間 10:00-11:30

場所 和光大学ポプリホール鶴川 3F多目的室

お問合せ/お申込み ☎042-737-1257 平日 9:00-17:00 広報企画室

当院通院・入院
通所リハビリ
ご利用者
ご家族向け

「わかる」
認知症勉強会のご案内

参加無料
申込み制

1月20日(木)開催予定

※ご家族の会のため、患者さま
ご本人はご参加いただけません

時間 10:00-11:45

場所 和光大学ポプリホール鶴川 リハーサル室

お問合せ/お申込み ☎042-735-2222(代表) 外来・臨床心理室

つるかわ栄養科
きせつの料理

チーズや生クリームをプラスして“まるやかなコク”

お正月疲れの胃腸に
赤いボルシチユウ

大根は消化を促進する
酵素を多く含んでおり、
トマトのビタミンCは、
粘膜の炎症を抑制します。
一緒に取ること
胃腸の負担を減らします。



材料 / 1人前

鶏もも肉	1枚(約300g)
大根	1/2本(約800g)
しめじ	1パック
にんにく	1片
トマト缶	1缶(450g)
★ 水	1カップ(200ml)
赤ワイン	1/4カップ(50ml)
コンソメ	2個(粉末の場合小さじ4)
ウスターソース	大さじ1
塩コショウ	少々

炊飯器でかんたんレシピ

作り方



- 1 大根は乱切り、しめじは石づきを取って軽くほぐし、にんにくは薄くスライスする
- 2 炊飯器に★を入れ、最後に鶏もも肉をのせて軽く塩コショウをし、炊飯スイッチを押す(炊飯器は5.5合炊き以上)
- 3 スイッチが切れたら、鶏もも肉をスープの中に埋めて、もう一度炊飯スイッチを押す
- 4 スイッチが切れたら、お皿に盛って、お好みでチーズや生クリームをのせて出来上がり



[障害者施設等一般病棟]のご案内

障害者施設等一般病棟とは、筋ジストロフィーやパーキンソン病、ALS（筋萎縮性側索硬化症）など指定難病の方、脊髄損傷や重度障害のある方を対象に、長期的且つ手厚い医療ケアをおこなうことのできる病棟です。2病棟 81床が10対1の看護配置での日々のケアを行ない、リハビリテーション専門職、管理栄養士、薬剤師など多職種連携により、患者さまの日常生活動作の維持と生活の質の向上を図っています。

対象患者

筋ジストロフィー等の指定難病

パーキンソン病（ホーエンヤール分類 ステージ3以上・生活機能障害度がII度又はIII度の状態）
 パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症）
 多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症、シャイ・ドレガー症候群）
 筋ジストロフィー、多発性硬化症、重症筋無力症、スモン、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、ハンチントン病、プリオン病、亜急性硬化性全脳炎、ライソゾーム病、副腎白質ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、もやもや病（ウイルス動脈輪閉塞症）

重度肢体不自由

※脳卒中後・認知症除く

脊髄損傷等の重度障害

※脳卒中後・認知症除く

重度意識障害

※意識レベルがJCSでII-30以上

上記以外の方でも、NPPVを使用している方、末期の悪性腫瘍の方、腹膜透析の方も対象です。また、区分外ですが重度の褥瘡のある方の治療、胃ろう造設・交換や、医療依存度の高い方の受け入れも積極的に行なっています。医療療養病棟と違い、投薬や注射薬、処置・検査等が出来高算定となるため、治療内容によって受け入れを制限することが基本的にはありません。

担当医師

ふじさわ やすひこ
藤澤 靖彦

専門 神経内科
 出身 聖マリアンナ医科大学
 学会 日本臨床栄養代謝学会 認定医・日本神経学会

だんばら みきお
檀原 幹生

専門 血液内科
 出身 北里大学
 学会 日本血液学会 専門医・日本内科学会 認定医

受け入れ症例実績

パーキンソン病
 パーキンソン病関連疾患
 （進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症）

プリオン病
 クロイツフェルト・ヤコブ病
 ハンチントン病
 ミトコンドリア病
 筋萎縮性側索硬化症
 脊髄小脳変性症
 歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症
 神経線維腫症

（2019-2021年）

入院・転院のご相談は

医療相談室 TEL 042-737-1270

東京都指定 認知症疾患医療センター
 IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会

鶴川サナトリウム病院

日本医療機能評価機構認定病院



無料送迎バス 小田急線「鶴川」駅約8分

つるさな 京王線「若葉台」駅約7分

広報誌に関するお問合せ ▶ kouhou3710@ims.gr.jp